

## ◆中学生・高校生の場合

帰国生の心配の第一は、「友だち関係」です。新しい帰国生が入ってきたとき、先生たちが一番気になるのもそのことです。「日本の学校に入ったらいじめられるのではないか」と親子で心配している場合も少なくありません。中学生・高校生になると、クラブ活動などでの日本独特の「先輩・後輩」関係なども気になります。

海外滞在が長期にわたる生徒の場合、親にとっては、慣れ親しんだ環境への「帰国」でも、子どもにとっては、「異国」の環境への移住です。日本の学校の経験を全く持たない生徒も珍しくありません。帰国前は親子で一緒に心配していても、子どもが学校に入ってしまうと、親の方は安心して、子どもの悩みに気がつかないこともあります。逆に、親の方が不安定になってしまって、子どもがそれにひきずられてしまう場合もあります。

ある程度のストレスは、成長のためにも必要なことなので、どの程度まで手を出して助けるのがいいのかを慎重に考えます。啓明では、学級担任や教科担任も海外からの編入生に慣れているので、あわてずに対応することができます。

思春期の中学生には、同年代の子どもたちの力が安心のための大きな助けになります。少し前に帰国した子どもたちに「自分が困ったときのことを思い出してアドバイスしてあげて。」とたのむと、新しい仲間のためになにかと気を遣ってくれます。これも、帰国生が多い学校の利点です。

啓明では、高3の9月まで編入生が入って来ます。短い間しか日本の学校生活を送れない生徒には、学校行事などに積極的に参加するようにアドバイスをします。行事等の中で友達を作り、充実感を味わうことによって、啓明学園を、気持ちの上で、「帰ってくるとほっとする港のような場所」とすることができます。帰国生たちは、すでにどこかの国に「港」をもっているかもしれませんが、日本の中にも心の寄りどころとなる場所がほしいと思います。

中学生・高校生では、リラックスして話せるようになるまで少し時間がかかります。一か月ぐらい経ったところで、少しずつ本人から話を聞くようにします。「父が会社に不適應で」などと思いがけない深刻な悩みが出てくることもあります。



啓明学園 中学・高校：国際学級

## ◆「帰国子女受け入れ校」の役割

はじめのひと月は、帰国生にとっては、毎日が不安と緊張の連続かもしれません。この時期の体験は、これからの一生に大きな影響を与えるものとなるでしょう。それだけに、帰国生を受け入れることは、学校にとっても、担当する先生にとってもやりがいのある仕事です。

国際学級の担当になってどんなところに喜びを感じるか聞いてみると、原先生は、「その子にとっての次の一歩は何かを考えて、それがうまくいったときがとてうれしいです。」と答えました。一人ひとりが大きく異なった体験を持つ子どもたちですから、新しい環境で力を発揮できるようになるプロセスは、一人ひとりちがいます。平均的な成長の筋道を想定してそれに何となくみんなを合わせていくような指導は、国際学級では通用しません。

山下先生は、「いろいろな意味で、幅の広さを持った子どもたちと付き合えるのが楽しい。」と言います。「十年後、十五年後には、否応なしに日本の教育現場もグローバル化することが避けられないかもしれません。そうだとしたら、私たちは未来の日本の学校の様子を先取りして見ているのかもしれない。」

国と国の間を行き来して学校を変えることは、だれにとっても楽なことではありません。しかし、そのたいへんさを乗り越えた子どもたちは、いろいろな力を身につけ、自信をもって生きていきます。そんな子どもたちの成長のお手伝いをするのは、確かに大きな喜びです。



帰国したばかりの子どもを、どのように学校生活に馴染ませ、どのように学習指導をしていくか、帰国子女受け入れ校として60年以上の歴史のある啓明学園の適応プログラムの紹介です。

その長い経験の中から得たノウハウで、受け入れ担当の先生だけではなく一般の先生方も含めた学校全体で、本当に多様性に富んだ子ども達の適応教育に取り組んでいるのが良くわかります。

帰国生徒の学習進度に合わせたきめ細かな「取り出し授業」は啓明学園の特徴の一つです。しかし、学習指導の成功は、帰国直後の生徒の不安定な気持ちを理解し、サポートする学習環境があって初めて可能です。

多様な帰国児童生徒が漸増する昨今、帰国適応に真剣に対応してくれる学校があることは、海外の保護者にとって大きな安心です。感謝。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校  
国際教育センター  
〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15  
電話：042-541-1003  
ホームページ：www.keimei.ac.jp  
Eメール：kokusai\_info@keimei.ac.jp